

## クロマツのまち その由来

東京から市川市に入ると、まず人々の目を引くのが、深く緑をたたえた江戸川沿いの国府台斜面林、そしてクロマツの高木が市街地に点々とそびえ立つまち並みだ。

京成線沿線や千葉街道沿いの一部は、縄文の昔、海に突き出た砂州だったところ。この市川砂州上に昔はクロマツが自生していたと考えられるが、現存するクロマツの高木は江戸時代後期以降、梨畑や桃畑を潮風から守るために植栽された防潮風林に由来する。

大正期から昭和前期にかけて、この地域は東京中部・東部で商売を営む人々の高級住宅地・別荘地となり、クロマツは敷地の境界としてそのまま活かされ、市川ならではの現在のようなまち並み景観につながった。

近年、相続の問題もあり、大きなお屋敷が分譲宅地化されるに伴って、クロマツの数は急速に減ってきているが、今でも、家々の佇まいとクロマツの木立が織りなす景観を楽しむ小路が随所にある。

## いちかわ 路地の魅力

そんな市川の魅力に触れるには、いわゆる名所旧跡のポイントをただ迎えるのではなく、個性的な門構えを見せる家々の佇まいとクロマツ木立が織りなすまち並み景観そのものを楽しむ路地散策をお薦めしたい。

菅野・平田・新田エリアは、中でもクロマツのあるまち並みがもっとも美しいところ。京成線より北側の八幡エリアも同様で、クロマツのあるお屋敷街とともに、サクラ並木に彩られた真間川沿いの小径もまた格好の散策路となっている。市川・真間・真間山エリアは、古代からの歴史と文化の薫り溢れるエリア。さらに、江戸川沿いに至ると、国府台斜面林から北の小塚山方面へ、水と緑、歴史と文化に触れられる回廊コースがある。中山・若宮エリアは、法華経寺を中心に発展した寺社のまち。スタジヤクスノキの巨木がそびえ立つ路地もまた、このエリアの魅力だ。

多くの文人達が愛した市川の魅力を、のんびりとした散策でぜひ、楽しんで頂きたい。



1 賑やかな八幡一番街  
八幡の藪知らず

2 葛飾八幡宮の千本イチョウ

3 風格ある漆喰塀の大屋敷

4 数寄屋造りのお屋敷とマツ  
マツに溶け込む近代建築

繁華街の隣に広がる、  
風情あるお屋敷街。  
そして、川辺の桜並木が  
人々を魅了する。

## 八幡・富貴島・真間川を歩く 〜緑濃い屋敷街と川辺の桜〜

コース1/JR本八幡駅～葛飾八幡宮：約0.8Km/徒歩約15分

都心まで30分かかるアクセス条件に恵まれた市川市。そんな市川市の中でも、最も活気ある商業地域が八幡地区だ。しかし、そのすぐ北側には、思わず散策したくなるような

閑静なお屋敷街が広がる。

まずはJR本八幡駅北口からスタート。北へ向かい、最初の道を右折して八幡一番街1へ。賑やかな商店街を抜けて左折すると千葉街道に出る。右側にある鬱蒼とした竹藪の森は、全国に名の知れた“八幡の藪知らず”だ。藪に入ってはならない

との古くからの言い伝えが命名の由来で、歴史を紐解きたくなるような雰囲気漂う。千葉街道を渡って鳥居をくぐると、そこは葛飾八幡宮の参道。京成線の踏切を越えれば境内だ。

“はちまんさま”の愛称で親しまれてきた葛飾八幡宮3は八幡の“へそ”として、まちの発展を支え続けてきた。

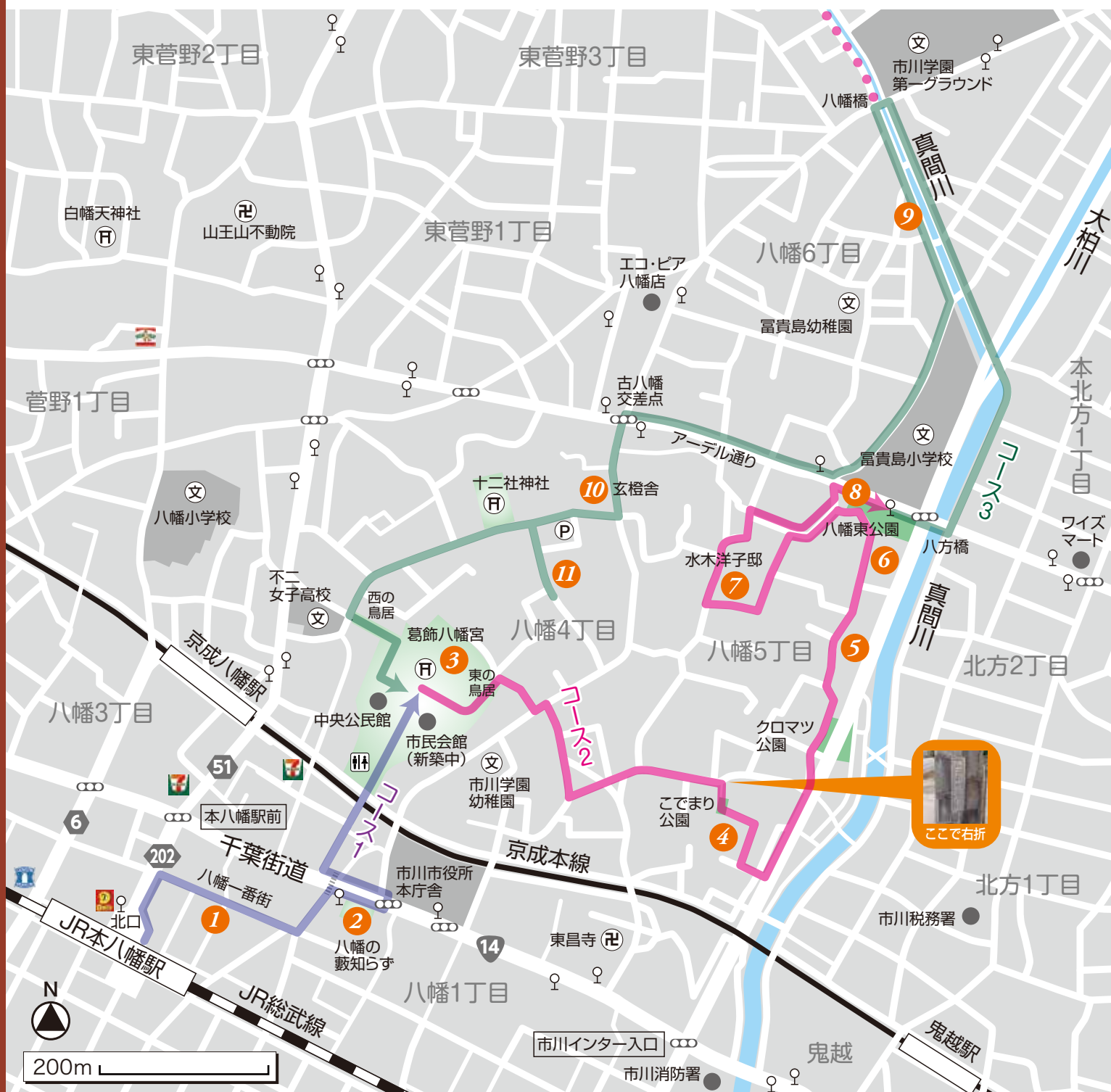
建立は890年頃まで遡り、格式も高い。社殿東側の千本イチョウは毎年11～12月頃にライトアップされ、人気を呼んでいる。現在、平成29年4月に執り行われる三十三周年大祭に向けて各所で整備が急ピッチで進んでいる。境内では毎年9月15日から農具市(通称“ボロ市”)が開かれる。

コース2/葛飾八幡宮～八幡東公園(富貴島小学校前):約1.8km/徒歩約45分

東の鳥居を出ると、そこはもう閑静なお屋敷街だ。クロマツの点在するクネクネ道を歩き、小さな公園(こでまり公園)を抜けると、長く延びる漆

喰塀の大屋敷4が現れる。クロマツの高木群を配した、どっしりとした門構えは圧巻。何とも風情ある格調高い邸宅だ。

開通したばかりの幹線道路を北上し、左斜めの道に入ると、右側には風格ある数寄屋造りのお屋敷5。大谷石の塀にクロマツが映える。✓



7 水木洋子邸  
富貴島小と八幡東公園

8 真間川べりの桜並木

やがてクロマツ群の緑を背にRC造りの邸宅6が正面に見えてくる。近代建築とクロマツの取り合わせが、新しいまち並み景観のあり方を感じさせる。その先のT字路を左折。道なりに行くと、右側にこんもりとした緑に囲まれた一軒家が目を引く。戦後の日本映画界の草分けとして著名な脚本家、

水木洋子邸7だ。現在は生前の面影を偲ぶギャラリーとして保存・公開されている。ぐるっと一周して、アーデル通りに入る。右側にあるのは八幡東公園8。この公園にそびえ立つクロマツ木立は地域の貴重な財産だ。向かいの富貴島小学校の校庭にも立派なクロマツの高木が並ぶ。

コース3/八幡東公園～葛飾八幡宮：約2.4Km/徒歩60分

八幡橋を渡り、すぐ左折して桜並木が続く真間川沿いに行く。幹線道路整備でかつての水辺の景観が損なわれてしまったのは残念だが、大柏川との分岐点を越えると静かな✓



10 ギャラリーにもなる玄燈舎  
マツと竹垣が路地を彩る

11

散策路の景観が蘇る。川風を受けながら、桜並木が覆いかぶさる石畳の道を歩くのは何とも気持ちが良い9。八幡橋まで来ると、川の右側一角が市川学園の第1グラウンド。以前、市川学園高校の校舎があった場所で、連続した樹木群が真間川沿いを彩っている。ここで折り返し、

今来た道の対岸を歩き、富貴島小裏手の細い道を進んで再びアーデル通りへ。右に進んで古八幡交差点まで至り、左折すると、緑に囲まれた邸宅がすぐ右手に見えてくる。玄燈舎10だ。ギャラリーを兼ねた自然味豊かな住居である。その先を右折、しばらく行くと左側

## 足をのぼせば...

桜並木に誘われ、八幡橋からちょっと先に進んでも面白い。もともと真間川沿いの桜並木は市川市の名所の一つ。満開の時期には大勢の散策人で賑わう。



に土蔵が見える。その角を曲がると、竹塀に囲まれた、こんもりとした屋敷林にクロマツの高木がそびえ立つ邸宅11が路地を飾っている。

再び戻って先へ進むと、左に葛飾八幡宮の西の鳥居。秋にはイチョウ並木の黄色が鮮やかに映える。ここを通過して葛飾八幡宮へと戻る。